

令和6年度柴田町議会2月会議

# 一般質問通告書

## 《 目 次 》

順	議席番号	一般質問通告者	頁
1	11番	吉田和夫議員	3
2	17番	平間奈緒美議員	5
3	3番	吉田清議員	6
4	13番	大坂三男議員	7
5	6番	加藤滋議員	9
6	16番	白内恵美子議員	11
7	1番	石森靖明議員	12

質問者	質問事項	備考
<p>[通告順1番] 11番 吉田 和夫</p>	<p>1. 带状疱疹ワクチン接種の取組は</p> <p>私はこれまでに带状疱疹ワクチン接種について、2度一般質問を行った。全国的にも接種の機運が高まり、国としても今年4月より定期接種が開始されるようである。報道によれば、肺炎球菌ワクチン接種と同じように、65歳以上を対象として5歳刻みの年齢で実施されることだ。</p> <p>既に助成を実施している自治体では、サービスを低下させることなく、65歳以上の希望者を対象としたり、助成金額を増額したりするなど、対応に苦慮している。</p> <p>私の近辺にも带状疱疹を発症した人が多くいるほか、自費で高額なワクチン接種を受けた人もいる。本町としても、接種を希望する人への助成を検討できないか。</p> <p>1) 定期接種開始に伴う本町の取組はどのように進めるのか。</p> <p>2) 带状疱疹ワクチンは、一定の基礎疾患のある人も対象とされているが、具体的な要件は。</p> <p>3) 带状疱疹ワクチンの、生ワクチン・不活化ワクチンそれぞれの助成金額は。</p> <p>4) 65歳以上の希望者への接種を可能とできないか。</p> <p>5) 本事業に地方創生臨時交付金を活用することはできないか。</p> <p>6) 接種の受診勧奨はどのように行うのか。</p>	
	<p>2. 胃がん検診（バリウム・胃カメラ）の選択はどのように</p> <p>令和元年度6月会議において、従来の胃がん検診に加え、内視鏡検査（胃カメラ）を選択できないかと一般質問した。</p> <p>今年4月から、バリウム検査と胃カメラ検査のいずれかを選択できるようになり、大変うれしく思う。</p> <p>しかし、選択の幅が広がったものの、多くの町民は「どのように申し込めばよいのか」「どこで受診可能なのか」「今までのように料金は統一なのか」「病院によって料金は異なるのか」などの情報が十分に得られていない。健康寿命の延伸と、受診率向上のため、次の点について質問する。</p> <p>1) 胃カメラ検査を選択する方法はどのようになっているのか。</p> <p>2) 町内に指定医療機関はあるのか。</p> <p>3) 医療機関によって料金は違うのか。</p> <p>4) バリウム検査と胃カメラ検査の料金は、それぞれいくらか。</p>	

質問者	質問事項	備考
[通告順1番] 吉田 和夫	5) まもなく4月になるが、受診率向上のための啓発活動は、どのように行うのか。	

質問者	質問事項	備考
<p>[通告順2番] 17番 平間 奈緒美</p>	<p>男女共同参画の進捗状況は</p> <p>本町では、平成10年6月17日に「柴田町男女共同参画都市宣言」を行い、男女がともに自立し、個性を發揮しながら、あらゆる分野に参画できるまちづくりを目指しています。現在、令和3年度から令和7年度までを計画期間とする「第5次しばた男女共同参画プラン」を策定し、男女共同参画社会の実現に向けた取組を推進しています。</p> <p>そこで、次の点について質問いたします。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 男女共同参画の現状と、これまでの実績をどのように評価していますか。</li> <li>2) 第5次しばた男女共同参画プランの進捗状況は。</li> <li>3) 男女共同参画における現時点での課題は何だと考えていますか。</li> </ol>	

質問者	質問事項	備考
<p>[通告順3番] 3番 吉田 清</p>	<p>認知症の人に寄り添った地域社会の構築について</p> <p>高齢化が進む中で、認知症は誰もがなり得るものであります。</p> <p>国内の認知症高齢者数は、2022年時点で443万人と推定されています。65歳以上の人口がピークを迎える2040年には、認知症高齢者数が約584万人、軽度認知障害(MCI)高齢者数が約612万人に上ると推計されています。このような状況の中で、誰もが認知症になり得るという認識のもと、共生社会の実現を加速することが重要です。</p> <p>認知症の人を単に「支える対象」として捉えるのではなく、認知症の人を含めた一人一人が尊厳のある個人として、その個性と能力を十分に発揮しながら、共に支え合って生きる共生社会の実現を目指し、2024年1月に認知症基本法が施行されました。</p> <p>特に市町村は、認知症の人やその家族等にとって身近な行政機関であるとともに、認知症施策を具体的に実施する重要な役割を担っています。認知症の人や家族等も安全かつ安心して暮らせる地域づくりに取り組む必要があると考えます。</p> <p>そこで、町の考えを伺います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 行政が中心となり、小中学校の児童生徒、地域の企業（バリアフリーサービス）、自治会等と連携し、認知症サポーター養成講座のさらなる展開や、「新しい認知症観」を定着させるための啓発活動を強化すべきと考えますが、町の見解を伺います。</li> <li>2) 認知症の人の尊厳ある暮らしを守るケア技法である「ユマニチュード」の普及について、積極的に取り組むべきと考えますが、町の見解を伺います。</li> <li>3) 地域における認知症ピアサポート環境の整備について、認知症の本人や家族等が診断後の早い段階で、同じ経験をした方々との情報共有や、様々なアドバイスが受けられるよう、インターネットを活用した交流も含めたピアサポート環境を整備することが重要と考えます。町の見解を伺います。</li> <li>4) 認知症の人の行方不明者対策について、認知症の行方不明者の生命を守るための取組を推進すべきと考えますが、町の見解を伺います。</li> <li>5) 常時介護が必要な高齢者や家族の負担軽減のため、特別養護老人ホームなどの施設の増設や、建設を促進する取組が求められますが、町の見解を伺います。</li> </ol>	

質問者	質問事項	備考
<p>[通告順4番] 13番 大坂 三男</p>	<p>1. 行政区及び自治会等の地域役員の負担軽減と担い手不足の解消を</p> <p>本年4月の行政区長の改選時期が迫り、各行政区では新区長の選定・推薦に向けた内部の調整が進められている。現時点では、現在の区長が留任し、引き続きその任に当たることが決定している地域がある一方で、現在の区長が事情により区長役から退任の意向を示しているものの、後任がなかなか決まらず、困っている地域もある。</p> <p>新区長が決まった後、区や自治会の役員を選出し、新体制がスタートすることになるが、3年ごとの改選がスムーズに進まない事態が繰り返されているとも聞いている。</p> <p>役員の担い手不足の解消は、持続可能な地域づくりや発展にとって大きな課題である。</p> <p>そこで伺う。</p> <p>1) 本町における行政区長の主な役割は何か。また、行政区長と自治会長の役割分担はどのようになっているのか。</p> <p>2) 行政区長の担い手不足の主な原因は何か。</p> <p>3) 広報紙やお知らせ版の仕分や配布作業は、役員の大きな負担となっていると聞いている。町等からの情報発信の手段として、SNS等のデジタル技術を活用することでその負担を軽減する考えはないか。その場合、十分なPR、周知、操作講習会を実施する必要があると考えるが、町の見解を伺う。</p> <p>4) 担い手不足の解消に向けた、今後の計画や施策はあるのか。</p>	
	<p>2. 本町の空き家、空き地、空き店舗の現状と解消策は</p> <p>近年の少子高齢化や都市部への人口集中に伴い、地方経済が縮小し、地方自治体では空き家や空き地、空き店舗の増加による弊害が指摘されている。本町の社会構造も同様に、他の地方自治体と同じ傾向があると推測される。</p> <p>そこで、町の考えを伺う。</p> <p>1) 本町における空き家、空き地、空き店舗の現状をどの程度把握しているか。</p> <p>2) それらの所有者や管理状況について、どの程度把握しているか。</p> <p>3) 近隣から苦情が寄せられたり、問題化した事例はあるか。その際、町はどのように対応したのか。</p> <p>4) 本町の空き家バンク制度の活用状況と実績を伺う。</p>	

質問者	質問事項	備考
[通告順4番] 大坂 三男	5) 関係者の相談に応じる体制は整っているか。	
	3. 町執行部の行政評価の実施について	
	<p>柴田町議会では、議会基本条例に基づき、議会活動の評価、点検を2年に1回実施している。これは、この条例の目的である、議会や議員活動を活性化させることで、町民生活の向上と町政の発展に貢献することがどれだけ達成したのかを明らかにし、次期行動計画につなげる取組である。</p> <p>そこで、町の考えを伺う。</p> <p>1) 町は業務執行にあたって、その執行状況や成果について自己評価を行うことが必要だと考えているか。必要と考える場合、その理由は。</p> <p>2) 現在、自己評価を実施している部門はあるか。ある場合、それは全庁的なものか、特定の部門に限られるのか。</p> <p>3) 評価指標や方法等は定められているのか。</p> <p>4) 評価結果の公表は考えているか。</p> <p>5) 住民満足度を評価基準にしている自治体もあるが、その事例を把握しているか。本町でも参考にする考えはあるか。</p>	



質問者	質問事項	備考
<p>[通告順5番] 6番 加藤 滋</p>	<p>大地震への備えは十分か</p> <p>我が国は、古くから地震大国と言われ、世界で発生するマグニチュード6以上の地震の約2割が日本周辺で発生しています。</p> <p>1月17日付けの河北新報によると、政府の地震調査委員会は、海溝型地震などの30年以内の発生確率を、宮城沖地震では80%から90%に引き上げました。マグニチュード7.4前後の地震を予測しており、「いつ起きてもおかしくない。引き続き備えをしてほしい」と報じられました。</p> <p>また、1月13日には、宮崎県日向灘を震源とする最大震度5弱、マグニチュード6.9の地震が発生しました。この地域では、昨年8月8日にも最大震度6弱、マグニチュード7.1の地震が発生した所でした。今回も、南海トラフ地震臨時情報の調査が行われ、巨大地震との関連が検討されました。さらに、昨年1月1日には能登半島地域で最大震度7、マグニチュード7.6の地震が発生したことも記憶に新しいところです。</p> <p>私は、30年前の1月17日早朝に発生した最大震度7、マグニチュード7.3の阪神・淡路大震災を当時住んでいた大阪府吹田市で経験しました。壊滅的な被害となった神戸市などの状況は、今でも鮮明に記憶しています。火災による黒煙が立ち上る市街地、倒壊した住宅やビル、崩落した高速道路など、被災地では現実とは思えない光景が広がっていました。大阪市内でも、多くの住宅の屋根にはブルーシートがかけられていました。</p> <p>さらに、約14年前の東日本大震災では、行政区長として地域の安否確認や被害状況の把握に追われ、自宅の片付けは後回しにして区の役員とともに、高齢者宅の倒れた家具や電化製品などの整理活動を行ったことを思い出します。また、生活用水を求め、給水場所には早朝から長い行列ができていました。</p> <p>このような惨状は二度と経験したくありませんが、宮城県沖地震などの発生確率が年々上昇していることを踏まえ、地震による大災害への備えについて伺います。</p> <p>1) 30年前の阪神・淡路大震災では、6,434人もの死者を出し、全壊した住宅は約10万4,000棟に上りました。犠牲者の約8割は、倒壊家屋や転倒した家具による圧死や窒息死でした。この教訓から、住民の犠牲を減らすためには、住宅の耐震補強や家具の転倒防止対策が必要とされています(1月16日付け河北新報社説より抜粋)。</p> <p>現在、地震への備えとして様々な対策が施されてい</p>	

質問者	質問事項	備考
<p>[通告順5番] 加藤 滋</p>	<p>ると考えますが、町内の旧耐震基準で建築された木造住宅の耐震補強や、一般住宅での家具の転倒防止について、どの程度対策が講じられているか把握していますか。また、スクールゾーン内の危険なブロック塀等の除却は完了したのでしょうか。</p> <p>2) 阪神・淡路大震災では、家屋などの下敷きになりながら助かった人もいました。しかし、大震災時には、消防や警察は救助に向かうことすら困難となる場合があるという教訓から、共助の重要性が再認識されました（1月16日付け河北新報社説より抜粋）。</p> <p>災害時には、隣近所の助け合いが大切であり、地域コミュニティーの必要性が求められています。本町では、地域の防災力を高めるために、どのような取組を実施していますか。</p> <p>3) 大震災時には、ライフラインの被害が甚大となることが予想されます。東日本大震災の時には、我が家でも電気が5日後、水道は12日後に復旧しました。特に水の確保には非常に苦労したものです。</p> <p>私は、令和5年度6月会議と令和5年度3月会議で、災害時協力井戸の登録制度について質問しました。この制度は、個人宅等が所有する井戸を「災害時協力井戸」として登録していただき、災害時に水道施設が復旧するまでの間、その井戸を開放するものです。多くの自治体がこの制度を導入しています。飲料水の確保については一定の対応が進められていると考えますが、生活用水（飲料水以外）の確保について、改めて井戸の活用を検討できないか伺います。</p>	

質問者	質問事項	備考
<p>[通告順6番] 16番 白内 恵美子</p>	<p>1. 学校図書館司書の増員を</p> <p>令和6年度に町内小中学校の学校図書館司書を9名から6名に減員しましたが、本町が掲げる柴田町子ども読書活動推進計画との整合性が取れていないのではないのでしょうか。そこで、学校図書館の現状と今後について伺います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 子どもの読書活動の意義は何か。</li> <li>2) 学校図書館司書について、第4次柴田町子ども読書活動推進計画にはどのように明記されているか。</li> <li>3) 各小中学校における貸出冊数の令和5年度と令和6年度との比較は。兼務校と専任校とで差が出ているのではないか。</li> <li>4) 柴田町校長会や柴田町教頭会などで、司書の全校への配置を要望する声が上がっているのではないか。</li> <li>5) 令和7年度から学校図書館司書の全校配置を提案する。</li> </ol>	
	<p>2. 新図書館建設について</p> <p>1月18日に開催された柴田町新図書館基本設計説明会の後、住民から設計変更を求める声が上がっています。そこで、新図書館建設に対する町の考えを伺います。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 新図書館の目指す姿と未来はどのようなものか。どのような人を集め、育てるのか。</li> <li>2) 基本設計案に対して、住民からどのような意見が出ているのか。</li> <li>3) 町長がよく例に出す岩手県紫波町図書館の面積、蔵書数、収蔵能力、閲覧席数、来館者数はそれぞれどの程度か。また、紫波町図書館が掲げているコンセプトと運営の三本柱とは何か。</li> <li>4) 新図書館建設の財源不足に対し、面積を削減するのではなく、大企業に企業版ふるさと納税を依頼することを提案する。</li> <li>5) 開館準備の業務は多岐にわたり、膨大な業務量が見込まれる。現行資料の見直しや新規図書を選定・購入は早急に取り組むべきではないか。また、準備業務のスケジュール作成は誰が担うのか。</li> <li>6) 開館準備の指揮を執るのは誰か。準備の作業量は現在の数倍になると想定するが、司書の増員と育成をどのように考えているのか。</li> <li>7) 新図書館建設は町の最重要プロジェクトであり、その推進役となるのは図書館長である。そこで、経験豊かな司書を館長として早急に公募することを提案する。</li> </ol>	

質問者	質問事項	備考
<p>[通告順7番] 1番 石森 靖明</p>	<p>1. 総合体育館で総合防災訓練の実施を</p> <p>1) 昨年12月にオープンした総合体育館は、町の防災拠点となっている。その防災機能や避難所としての機能を確認し、町民の防災意識を高めるためにも、総合体育館を会場とした総合防災訓練を開催すべきと考えるが、町の見解を伺う。</p> <p>2) 総合体育館で防災訓練を開催する場合、その特性や広大な敷地を生かし、「防災×スポーツ」「防災×遊び」「防災×アウトドア」など、体験を通して新たな視点を取り入れ、子どもから高齢者までが防災の知識を深められる機会とすべきと考えるが、町の考えは。</p>	
	<p>2. 太陽の村の今後の在り方を問う</p> <p>1) 太陽の村について、指定管理者や町民、利用者から、施設の整備・管理に関する意見や要望は寄せられているのか。また、それに対して町はどのように対応しているのか。</p> <p>2) 町として、太陽の村の今後の運営方針や活用の方向性について、どのように考えているのか。</p> <p>3) 太陽の村をキャンプ場として再整備するなど、観光資源としての魅力向上や、地域活性化につなげるための具体的な検討を行う考えはあるのか。</p>	